

西川ゴム工業株式会社SDGs宣言

「読売新聞 ひろしま県民情報」に小川社長インタビュー記事が掲載されました！

掲載は、2023年11月1日付 読売新聞 ひろしま県民情報の紙面です。

地域貢献として、三原の中央森林公園で弊社が進めていく森林保全活動に関してのご紹介です。

西川ゴム工業 小川秀樹社長に聞く

県内企業が自治体と手を組み、身近な森を守り育てる地域貢献を始めている。「西川ゴム工業」（本社・広島市西区三篠町）は来春、三原市にある県有森を整備する。こうした取り組みについて、同社の小川秀樹社長に聞いた。

——整備するのは。

三原市の中央森林公園にあるアカマツやコナラの森約1.2㍍。生い茂った森で社員が枝打ちや下草刈りをします。「nishikawaみどりの森」と命名し、親子で散策やカブトムシ捕りを楽しめるようにしたいと思います。当社は8月、県と「グリーンボンド（環境債）」環境保全協定を結びました。

——なぜ県と協定したか。

環境保全は大きな課題で、個々の企業の取り組みには限りがあります。しかし多くの企業と自治体が手を組めば大きな力になる。私たちには、身近な自然を守り育てる責任が

地域の自然整備 県と協定



「広島企業の企業として地域貢献したい」と話す小川社長（広島市西区の西川ゴム工業本社で）

あると考えています。

——活動のメリットは。

森の整備に汗をかくことで、まず社員の環境意識が高まり、地域のみなさんとの結びつきも強まります。当社は1949年設立でグローバル展開しているものの、何をしている会社なのか、地元・広島でよく知られているとは言えません。地域貢献は会社の直接の利益にならなくても当社を身近に感じていただく機会になるはずで、広島湾や創業の地にちなんだ県西部の三篠川の保全活動にも力を注いでいくつもりです。

当記事は読売新聞様の利用承諾を得て、1年間掲載させていただきます。